

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.237

2013年2月

濱口総長がラオス人民民主共和国を訪問



目次

●ニュース	
濱口総長がラオス人民民主共和国を訪問	3
大学入試センター試験が実施される	4
写真撮影講習会を開催	4
●知の未来へ	
「マイクロ・ナノシステム工学」で拓く単一細胞解析技術	5
丸山 央峰（大学院工学研究科助教）	
●知の先端	
立法の哲学に向けて	6
大屋 雄裕（大学院法学研究科准教授）	
●キャンパスクローズアップ	
石田記念名古屋大学インターナショナルレジデンス妙見	8
●学生の元気	
平成24年度名古屋大学体育会会長表彰 表彰式	10
●部局ニュース	
第9回平田記念レクチャー、国際有機合成名古屋シンポジウムを同時開催	11
材料バックキャストテクノロジーシンポジウムを開催	12
日独シンポジウム「ランドスケープデザインの新潮流2」を開催	12
高校生防災フォーラムを開催	13
日仏シンポジウム「ひきこもり」を開催	13
ミクロの探検隊を開催	14
●名大を表敬訪問された方々	15
●新たに締結した学術交流協定	15
●構成員を対象とした研修	16
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成24年12月16日～平成25年1月15日	18
●INFORMATION	
平成24年度定年退職教授等の最終講義日程	20
●イベントカレンダー	21
●ちょっと名大史	
学部の誕生と草創期⑤ — 医学部 —	24

濱口総長がラオス人民民主共和国を訪問





2

1

1 横田大使(右)への表敬訪問の様子
2 全学同窓会ラオス支部設立総会における記念撮影

濱口総長が、12月12日(水)から15日(土)までの4日間、鮎京理事とともにラオス人民民主共和国を訪問しました。これは、東南アジアを中心とした本学の国際化及び国際人材育成を推進すること、本学と大学間学术交流協定締結校であるラオス国立大学や、ラオス教育省、ラオス保健省、保健科学大学、セサシラット病院、在ラオス日本国大使館等との連携を強化し学术交流を推進すること、全学同窓会ラオス支部の設立総会に出席することを主たる目的としたものです。

12日(水)、総長一行は首都ビエンチャンにおいて、午前中はソムオック・キンサダー ラオス保健省副大臣、ソムチット・ブッパー 保健科学大学学長らを訪問し、同国における医学教育及び医療の現状について意見交換を行いました。午後からはスッコンセーン・サイニャルート ラオス国立大学学長を訪問し、大学院法学研究科が進めている同国における法整備に伴う人材

育成等について意見交換を行いました。夕刻には、ラオスを開催国として行われた、ASEAN 11カ国の大学生による2年に1度のスポーツの祭典である「ASEAN University Games」の開会式が行われ、来賓として出席しました。

13日(木)は、地方都市ルアンパバーン在住のヤング・リーダーズ・プログラム(YLP)修了生と意見交換を行いました。またピエンチャンにおいてはラオス教育省を表敬訪問し、YLPによる医療行政に携わる人材育成について意見交換を行い、同国における本学の国際人材育成の状況を確認しました。

14日(金)は、日本の援助でピエンチャンに設立された近代的なセサシラット病院を訪問し、同病院における医療の実情や保険制度について意見交換を行い、同病院内を視察しました。その後、ラオス国立大学のメインキャンパスから離れた場所にある同大学法

政治学部のキャンパスを訪問し、同国における法整備の状況及び日本法教育研究センターの必要性について意見交換を行いました。午後には、横田順子在ラオス日本国大使館特命全権大使を表敬訪問し、ラオスにおける法整備及び医療行政分野について意見交換を行い、本学が行う国際人材養成への協力を要請しました。

同日夕刻には、全学同窓会ラオス支部の設立総会が行われました。ポンマーク・ダーラーロイ ラオス日本友好協会会長及び磯 正人在ラオス日本国大使館公使も出席し、卒業生の中からYLPプログラム第1期修了生であるブンフェン・フォンマライシス ラオス保健省官房長を含む6名の支部役員が任命され、認定証、支部旗、記念品を総長から授与されました。各専門分野の第一線で活躍する卒業生と関係者合わせて約40名が集まり、和やかな雰囲気の中、改めて絆を深める機会となりました。

大学入試センター試験が実施される

—本学関係会場で約7,000名が受験—

平成25年度大学入試センター試験が、1月19日(土)、20日(日)の2日間、全国707会場で実施され、本学関係では東山キャンパスや学外の高等学校など合計8会場で約7,000名が受験しました。今年度の全国の志願者数は、前年度より17,807名(3.2%増)増え、573,344名となりました。

試験1日目は、午前8時すぎにはコートやマフラーで身



試験に臨む受験者

を包んだ受験者が会場に集まり始め、参考書やノートで最終チェックをしたり、友人との会話でリラックスするなどして、各々の方法で試験に備えていました。また、東山キャンパスでは、高校ごとに集合し、教師から激励を受け、健闘を誓う受験者の姿が見られ、8時30分の入室開始と同時に、次々と試験室へ入室し、予定どおり試験が実施されました。

例年、同試験の実施日には、小雪が舞うなどの荒天になることが多いのですが、今年の天候は多少の冷えこみはあったものの穏やかな晴天になりました。

また、濱口総長と竹下事務局長が各試験場を訪問し、試験場主任及び教職員をねぎらいました。

なお、本学の前期日程試験は、2月25日(月)、26日(火)及び27日(水)に、また、後期日程試験(医学部医学科)については、3月12日(火)に実施されます。

写真撮影講習会を開催

写真撮影講習会が、12月21日(金)、シンポジオンホールにおいて開催されました。

同講習会は、教職員を対象に、ホームページや広報誌などの広報物に掲載するに足るクオリティの写真を撮るための基本的な技術の習得を目的とした、広報室が主催する初めての講習会です。



会場の様子

大学主催のイベント等の増加にともない、教職員が写真を撮影する機会が増えてきています。また、技術の進歩により、カメラの性能も向上し、操作も複雑になっています。そこで、今回は、名大トピックスの表紙を初め、本学の撮影を長年手がけているプロカメラマンの青木孝夫氏を招き、カメラの歴史から実践的なテクニックまで、素人でも上手に撮影することができるノウハウを紹介しました。

講習会では、青木氏が、作品例を提示しながら、写真の歴史、仕組み等の基礎的な解説や、カメラの基本操作、撮影の際の工夫等の実践的な説明を行いました。講習後の質疑応答では、普段シンポジウム等で撮影を担当している方からの質問が相次ぎ、参加者は熱心にメモをとっていました。

当日は100名を超える参加があり、アンケート調査では9割以上の参加者から、「ためになった」との回答がありました。

広報室では、技術、ノウハウをそれぞれの部署での広報業務に還元するため、今後も要望に応じ、講習会を開催する予定です。

「マイクロ・ナノシステム工学」で拓く単一細胞解析技術

丸山 央峰
大学院工学研究科助教

「細胞解析」というと細胞生物学等の領域と思われるかもしれませんが、工学技術が大いに活躍できる分野であります。従来、機械式のマイクロマニピュレータが100 μm 程度の卵子を用いた人工授精等に用いられてきましたが、数~十 μm 程度の大きさの細胞や100nm程度のインフルエンザウイルス等の操作は困難です。また、鳥インフルエンザウイルス等の新種のウイルスの発見及び流行が発生しており、早期診断や効果的な治療の実現には、ウイルスの感染機構及び感染細胞の生理状態変化を詳細に計測・解析する必要があります。筆者らは、マイクロ・ナノシステム工学を駆使し、微小閉空間での流体制御技術、ウイルスを1個単位で操作するナノ操作技術、細胞内の局所的な生理状態計測技術等を統合した、単一細胞解析システムの実現に向けて研究しております。

図1にマイクロ流体チップを用いた単一インフルエンザウイルスの特定細胞への感染システムを示します。マイクロ流体チップは流体の精密制御やウイルスの拡散防止に効果的で、微細加工技術を用いて作製されます。ウイルスは100nmと小

さいため蛍光物質で染色して観察します。静電気力で濃縮、光ピンセットと呼ばれる非接触操作手法による1個単位での搬送により、ウイルス1個単位でのチャンバ内の細胞への感染が可能です。図2に生理状態計測用センサと細胞内への選択的導入システムを示します。センサはpHや温度に応じて色や蛍光強度の変わる試薬を生体適合性に優れた高分子微粒子に導入して作製されます。センサの画像情報が環境情報に変換されるため非接触で生理状態を計測でき、配線が困難な細胞内の計測に適しています。センサの細胞内導入については、紫外・可視光照射により表面電位を制御可能なフォトクロミック材料を用い、光で細胞接着性を制御し細胞膜と融合が可能なマイクロカプセルを作製しました。100nmの蛍光センサを導入したカプセルを用い、細胞内へのセンサ導入に成功しています。これらの技術の発展により、単一ウイルス感染と感染細胞の状態変化の定量評価が可能な、従来の細胞生物学や分子生物学のアプローチとは異なる新しい細胞解析技術を拓けると確信し日々研究を進めております。

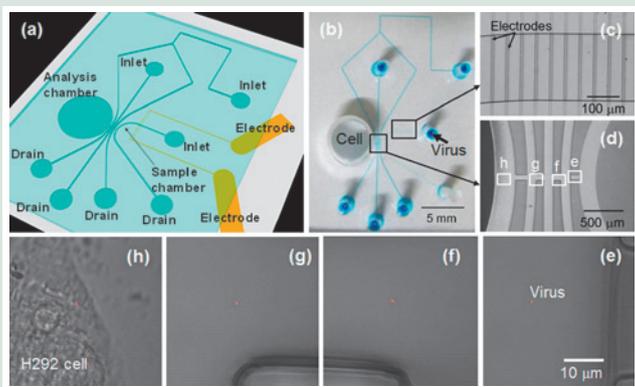


図1 単一ウイルス感染システム：(a)は単一ウイルス感染チップの概念図を、(b)はチップの全体像を、(c)・(d)はそれぞれ静電気力によるウイルス濃縮部、光ピンセットによるウイルス搬送部を示します。(e)-(h)に示すように単一のウイルス（赤い輝点）を光ピンセットで操作し、チャンバ内の特定の細胞へ感染させることが可能です。

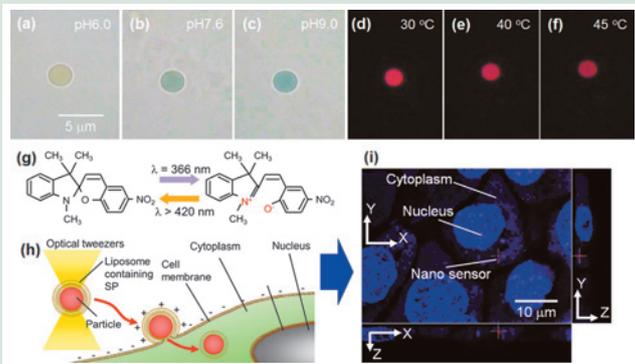


図2 細胞生理状態計測センサと光制御細胞内導入システム：(a)-(c) プロモチモールブルー (BTB) を導入した pH センサ (pH の上昇にともない黄→緑→青と色が変化します。)、(d)-(f) 蛍光色素を用いた温度センサ (温度上昇に伴い蛍光強度が低下します。)、(g) フォトクロミック材料のスピロピラン (SP) の光構造変化、(h) 光細胞附着制御によるセンサの細胞内導入の概念図、(i) 100nmの蛍光温度センサの細胞内導入結果 (赤の輝点：温度センサ、濃い青：細胞核、薄い青：細胞質)

立法の哲学に向けて

大屋 雄裕 大学院法学研究科准教授

私の専門である「法哲学」を、英語では一般的に jurisprudence と呼びます。「司法」 juris- の活動に現れる「賢慮」 prudence を分析する、明確に意識されてはいなくとも裁判官・弁護士などの法律家が共有しているまっとうな考え方を取り出し、可視化することがその重要な機能と位置付けられてきたのですが、今にしてみると、そこにはあらかじめ一つの限界が潜んでいたように思われます。それはつまり、裁判で適用される法律はどこから来るのか、どのような場合に正しいかという問題でした。

実はこの点は、英米では大きな問題ではありません。判例法とも呼ばれるように、これらの社会では新たな規範を作り出すシステムとして裁判が非常に大きな意義と権威を持っているからで

す。しかし成文法である日本において、法規範の中心をなす法律は国会が定めるものであり、裁判にはあくまでその個別具体的な事例への適用という枠がはめられています。実態としては画期的な法創造を行なっているように見える判例であっても、あくまで既存の法規範の解釈・適用によってその結論に達したのだと説明されています。そのような社会において、法律の内容に沈黙してその適用だけの正当性を論じることができるのでしょうか。

ある意味ではこの限界は、我々があくまでアカデミックな研究者でありたいという希望の反映でもあります。つまり現実に法律を作り出す立法過程はまさに「政治」であり、力関係や陰謀が渦巻くきたない場所、学問的・理論的な研究の対象に



日本学術会議による立法学シンポジウム（2007年9月）

はできないのだというわけです。しかし私見では、このような見方には三つの問題があります。

第一は前述の通り、立法を論じない法律学には一定の限界があるし、そもそも厳密な両者の分離はできないということです。憲法9条があるにもかかわらず自衛隊の存在が解釈によって認められているというとき、この解釈が立法的な意義を持っていないとか、従って学問的で中立的なものだと考えることができるでしょうか。

第二は、「何を選ぶか」を学問的に基礎付けることは確かに難しいのですが、「何を選んではならないか」は決めやすいということです。法哲学者であるロン・L・フラーは、法が法であるためには無矛盾性・明瞭性・継続性・不遑及性などの条件を満たす必要があると考え、これらを「法的内的道徳」と呼びました。いわば法の最低条件と呼ぶべきものかもしれませんが、これ以外にも「悪法」の条件を突き止め、それを避けるような範囲へと立法を制限することは、政治運動などとは無縁な研究として可能なのではないのでしょうか。

第三は、議会自体が法律によって統制されている行政過程でもあるということです。たとえば議会内の手続は国会法によって規律されていますし、その参加者を決めるために行なわれる選挙は、むき出しの政治闘争としての性質を持っている一方、公職選挙法によって厳しい規制を加えられ、違反者に刑事罰を含む制裁が科される法制度でもあります。選挙制度を変えれば選ばれる代表の性質が変わりますし、それは国会内外で行われる政治活動の質や方向性を変えることになるでしょう。実のところ90年代の選挙制度改革にはそのような意義が秘められていたのだが、法制度と政治の関係についての考察が不足していたために



国会議事堂

極めて中途半端な改革にとどまり、結果として現在の混迷がもたらされたと私は考えています。

このような問題を意識しているのは、私だけではありません。ヨーロッパでも「立法」Legis-の哲学としてのLegisprudenceの必要性が主張され、専門の国際誌も創刊されました。日本では学術会議に立法学分科会が設置され、さまざまな分野・視点からの検討が進められています（その成果を含めた論文集『立法学のフロンティア』全3巻が、ナカニシヤ出版より2013年刊行予定）。

折からの総選挙では、政権交代の評価を含めた政治全体のあり方が争点となりました。しかしそれを個々の有権者の体感的な利害得失や、政局や政治運動の文脈でのみ論じているあいだは、日本の政治のレベルが大きく変わることはないでしょう。より広く・長期間にわたって蓄積可能な学問的営為の対象として政治プロセスを捉え、検討を積み重ねていくことが、国民の不満に応える大学なりの貢献ではないかと思われます。

1974年生まれ。東京大学法学部卒業、同大学助手を経て現職。専門は法哲学。著書に『自由とは何か：監視社会と「個人」の消滅』（ちくま新書、2007年）、『人権論の再定位2 人権の主体』（共著、法律文化社、2010年）、『成長なき時代の「国家」を構想する』（共著、ナカニシヤ、2010年）、論文に「リスク社会における警察政策」（警察学論集65巻2号、2012年）などがある。

おおや たけひろ



40. 石田記念名古屋大学インターナショナルレジデンス妙見



■設計コンセプト

石田記念名古屋大学インターナショナルレジデンス妙見は、名古屋大学が留学生寄宿舎整備の一環として計画した、石田財団の記念施設を併設する93室の留学生用寄宿舎です。

敷地周辺は良好な住宅地が広がり、なだらかに傾斜した前面道路沿いに緑地帯を設ける配置計画とすることで街区にさらなる潤いを与えています。

外観は寮室バルコニー手摺のアルミ型材により水平ラインを強調することで、のびやかでダイナミックな印象を生み出しながらも、東西妻面の濃茶色磁器タイル等と組み合わせることで周囲の街並みになじむよう落ち着いた雰囲気を演出しています。

建物入口には外部から内部にまたがるオレンジ

色のサイン壁を設け、留学生をやさしく迎え入れます。またこのオレンジ色が内部の玄関や階段の壁、寮室の扉枠や部屋の壁等に展開し、空間に彩りを付与し記憶に残る建物としています。

建物構成は中廊下タイプで無駄の無いコンパクトな平面計画としていますが、大きな窓をもつエレベーターホールや、階段を建物中央に南北を貫くよう配置するなど、自然光や通風が館内にいきわたる工夫をしています。1階エントランス空間も同様に南北に貫通し、北側前面道路に面する庭と南側庭を結び付けることにより明るく豊かな空間を実現しています。

寮室は1K (15.1 m²) にユニットバス、作り付け壁面収納を備えたコンパクトな間取りとし、床はタイルカーペット、壁・天井はビニルクロス



■建築概要

建物名称：石田記念名古屋大学インター
ナショナルレジデンス妙見

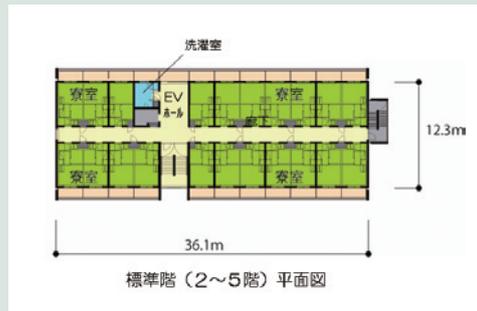
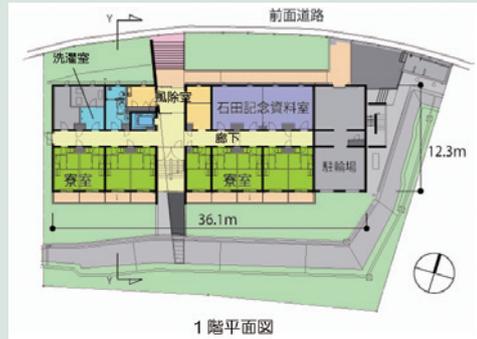
主要用途：共同住宅

建築面積：499.01 m²

延床面積：2,276.63 m²

階数：地上5階

構造：RC造



仕上げとなっています。窓ガラスは、出来るだけ大きな採光を取り入れると共に、熱損失・遮音性を考慮してペアガラスを採用しています。また外壁面への断熱材（50 mm）間仕切り壁の遮音性等良質な居住環境を提供できるよう配慮しています。

設備計画においても、留学生に配慮し、光熱費の最少化を図ったオール電化（電気温水器・IHヒーター）、LED照明等を採用しています。

構造計画としては、居室に柱・梁型の出ない壁

式鉄筋コンクリート構造とし、居室は壁で2室を取囲む計画で中間に小梁を設けないことで、寮室の天井裏スラブ下をフラットとし将来における部屋利用の自由度が広がるよう計画しています。

その他、セキュリティ面から寮室・エントランスの玄関扉についてカードキーの採用、景観と利便性の面から建物内の一角に駐輪場を配置するなど、きめ細かく計画された建物となっています。



1	2	5	6
3	4	8	9

- 1 北側外観 北西より
- 2 北側外観（玄関）
- 3 廊下
- 4 寮室
- 5 北側外観（階段室）
- 6 1階平面図
- 7 標準階平面図
- 8 寮室イメージ図
- 9 配置図

平成24年度名古屋大学体育会会長表彰

表彰式



名古屋大学体育会は、1月11日(金)、豊田講堂第1会議室において、平成24年度名古屋大学体育会会長表彰 表彰式を挙りました。

この表彰は、本学体育会における優秀な個人・団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で24回目となります。

今年度は、体育会会長表彰審査会の審査を経た「個人の部」8名、「団体の部」5団体が本学体育会会長である濱口総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。

なお、受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。

平成24年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 (表彰対象期間：平成23年11月1日～平成24年10月31日)

個人の部 (8名)

個人名	所属学部・学年	所属団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 四ノ宮悠司	工学部・3年	ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第82回中部学生ライフル射撃選手権大会 種目：AR10mS60M 優勝
			一般賞 (第4条2項2号)	第30回中部学生ライフル射撃伏射大会 種目：AR10mP60MW 優勝
2 本山めぐみ	医学部・3年	ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第24回中部女子学生ライフル射撃選手権大会 種目：AR10mS40W 優勝
3 岡田 裕也	医学部・5年	スキー部	一般賞 (第4条2項1号)	第67回国民体育大会冬季大会スキー競技会 男子10km クラシカル (個人戦、成年男子A) 出場
4 稲村 琢甫	教育学部・2年	空手道部	一般賞 (第4条2項1号)	第67回国民体育大会空手道部競技 成年男子 組手個人重量 出場
5 池野 千紘	教育学部・4年	トライアスロン部	一般賞 (第4条2項3号)	浦郡オレンジトライアスロンエイジ (スタンダードディスタンス) 女子 優勝
6 青島 由樹	情報文化学部・4年	馬術部	一般賞 (第4条2項2号)	第84回中部学生馬術選手権大会 優勝
7 鈴木亜由子	経済学部・3年	陸上競技部	一般賞 (第4条2項2号)	天皇賜杯第81回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子5000m 優勝
			特別賞 (第4条1項2号)	第67回国民体育大会 陸上競技 成年女子5000m 第2位
8 近藤 康満	経済学部・3年	オリエンテーリング部	特別賞 (第4条1項1号)	Junior World Orienteering Championships 2012 Sprint、Long distance、Middle distance、Relayの4種目 出場

団体の部 (5団体)

団体名	代表者		表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
	氏名	所属学部・学年		
1 男子ラクロス部	畦知伸一郎	理学部・3年	一般賞 (第4条2項2号)	第20回東海学生ラクロスリーグ戦 優勝
2 馬術部	栗野 祐子	医学部・3年	一般賞 (第4条2項2号)	第47回中部学生自馬競技大会 総合馬術競技団体 優勝
3 アーチェリー部	杉山 禎	情報文化学部・2年	一般賞 (第4条2項2号)	2012年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦 男子トーナメント 優勝
			一般賞 (第4条2項2号)	2012年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦 女子トーナメント 優勝
4 ライフル射撃部	高倉健太郎	工学部・3年	一般賞 (第4条2項2号)	第30回中部学生ライフル射撃伏射大会 AR10m P60団体 優勝
			一般賞 (第4条2項2号)	第81回中部学生ライフル射撃選手権大会 AR10m S60M 団体 優勝
			一般賞 (第4条2項2号)	第41回中部学生ライフル射撃三姿勢大会 AR10m 3×20MW 団体 優勝
			一般賞 (第4条2項2号)	第82回中部学生ライフル射撃選手権大会 AR10m S60M 団体 優勝
5 アメリカンフットボール部	小川 望美	情報文化学部・3年	一般賞 (第4条2項2号)	平成23年度東海学生アメリカンフットボール連盟 秋季リーグ 1部リーグ 優勝

第9回平田記念レクチャー、国際有機合成名古屋シンポジウムを同時開催

●博士課程教育リーディングプログラム「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」



メダル授与式の様子

博士課程教育リーディングプログラム「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」は、1月9日(水)、野依記念学術交流館において、「第9回平田記念レクチャー」及び「グリーン自然科学国際教育研究プログラム (IGER)－物質科学国際研究センター (RCMS)『国際有機合成名古屋シンポジウム』」を、平田義正先生追悼記念事業会との共催で同時開催しました。

同レクチャーは、天然物有機化学の礎を築き、多くの優秀な門下生を輩出した故平田義正本学名誉教授の功績をたたえて、平成16年に設立されました。以降、毎年開催されており、有機合成化学領域において傑出した研究者に平田義正メモリアルレクチャー賞を贈呈しています。9回目を迎えた今回は、国際有機合成名古屋シンポジウムと併せて開催し、国内外から招へいた新進気鋭の若手研究者が、最新の有機合成研究について講演しました。

今年度の平田義正メモリアルレクチャー賞は、革新的なフッ素化反応を開拓し続けているトビアス・リッター ハーバード大学准教授に授与されました。リッター准教授は、斬新な求電子フッ素化試薬を開発し、従来の方法では達成

することのできなかった、化合物合成の終盤におけるフッ素化反応を実現しました。この方法により、医薬系分野において病気の診断に用いられているPETイメージング技術に飛躍的な革新をもたらすことが期待されています。リッター准教授には、故平田名誉教授の像を象った純金製のメダルが贈呈されました。受賞講演でリッター准教授は、研究の背景や成功に至るまでの歩みについて、丁寧に順を追って話し、満員の聴衆は、熱心に聞き入りました。

国際有機合成名古屋シンポジウムの講演者には大井貴史工学研究科教授の他、スペインのルーベン・マルティンカタルーニャ化学研究機構グループリーダー、アメリカのテシク・ピーター・ユーン ウィスコンシン大学マディソン校准教授、西林仁昭東京大学准教授を招き、各氏が展開している有機合成化学の最先端の研究について、分かりやすい講演がありました。

当日は、290名が参加して大盛況となり、会場からの質問がやまない活気溢れるシンポジウムとなりました。



リッター准教授による講演の様子



記念撮影

材料バックキャストテクノロジーシンポジウムを開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科附属材料バックキャストテクノロジー研究センターは、1月11日(金)、IB電子情報館において、「太陽エネルギー社会構築のためのエネルギー変換テクノロジー～エネルギーを『つくる』『ためる』無駄を『はぶく』～」を開催しました。これは、研究者、技術者、学生等を対象として、太陽エネルギー社会構築のための材料テ



会場の様子

クノロジーと、高効率な「エネルギー『変換』」について、その必要性、現在の技術水準及び将来の技術開発課題を明らかにするとともに、技術開発をより迅速に進展させるための施策について議論する目的で実施されたものです。

シンポジウムでは、初めに、河本材料バックキャストテクノロジー研究センター長が、太陽エネルギー社会を実現する材料テクノロジーの必要性を訴えた後、鈴置工学研究科長が太陽エネルギー社会構築のための材料テクノロジー研究への期待を表明しました。続いて、様々な科学技術分野の講師が、それぞれ「次世代有機系太陽電池が拓く未来」、「太陽エネルギー社会構築のための次世代電池」、「キャパシタ型蓄電デバイス材料の進歩と可能性」、「エクセルギーで考える無駄とセラミックス」と題して講演を行い、熱意溢れる質疑応答、討論が展開されました。

またポスター発表では、大学側のシーズとして、23件の研究成果が発表され、参加者との交流が活発に行われました。参加者は144名にのぼり、大変盛況でした。

同センターは今後も、東海地域の産学官との連携を深め、「材料バックキャストテクノロジー」という視点からの研究及び人材育成の輪を広げていく考えです。

日独シンポジウム「ランドスケープデザインの新潮流2」を開催

●大学院環境学研究科、グローバルCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」

大学院環境学研究科及びグローバルCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」は、1月7日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて、日本都市計画学会中部支部との共催で、日独シンポジウム「ランドスケープデザインの新潮流2：都市・田園における生態系サービスと生物多様性を高める」を開催しました。



パネルディスカッションの様子

同シンポジウムでは、都市・田園における生態系の重要性とそれを保全・創出する環境アセスメント(影響評価)、ミティゲーション(影響緩和)等の手法、生態系に関わる意識や計画・デザインについて、日独の研究者が議論しました。

午前は、ウルフギヤング・ヴェンデ ライプニッツ・エコロジー空間開発研究所教授、大場 真エコトピア科学研究所特任助教、林環境学研究科交通・都市国際研究センター長による基調講演、午後は、村山顕人同研究科准教授、夏原由博同研究科教授、河村則行同研究科准教授、吉田友紀子同研究科助教、加藤禎久茨城大学地球変動適応科学研究機関共同研究員、福岡孝則神戸大学大学院工学研究科特命准教授による報告、そして、パネルディスカッションが行われました。

ランドスケープデザイン、ランドスケープマネジメント、都市計画、緑地計画、農村コミュニティ、生物多様性、生態系サービス、環境アセスメント、環境シミュレーション等の専門家が新しいランドスケープデザインのあり方について議論し、共通の方向性を確認するとともに、アイデアやデータ、分析結果等の統合的活用・実現の課題を共有しました。

高校生防災フォーラムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、12月27日(木)、ES 総合館 ES ホール及び環境総合館において、愛知県防災局、愛知県教育委員会との共催で、高校生防災フォーラムを開催しました。

同フォーラムは、将来の若手防災リーダーの育成を主な目的として行われたもので、今年度夏に開催された高大連



分科会での議論の様子

携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」の参加校が、その後の防災活動の実践状況について報告しました。愛知県内の高校で、今年度で2年目の参加となる15校と1年目となる15校の計30校の生徒及び教員、大学教員、自治体防災担当者、防災ボランティアが参加しました。

午前の部では、各高校から防災活動への取り組みについて報告がありました。報告では、学校周辺での液状化の危険性の調査、校舎内の危険場所の調査、防災対策・意識に関する校内アンケート、防災訓練、炊き出し、AEDや心肺蘇生法の訓練等の取り組みが紹介されました。また、文化祭での催しを通じた防災意識の啓発、保護者を巻き込んだ3者での取り組み等といった工夫も紹介されました。

午後の部は、学校間での防災活動に関する意見交流が行われました。交流は分科会形式で行われ、高校生同士の意見交換、自治体防災担当者等専門家と高校生の意見交換が実施され、今後の防災活動に向けた議論が行われました。

最後に、今年度で2年目の参加となる高校の修了式が実施され、参加生徒に修了証書が授与されました。

日仏シンポジウム「ひきこもり」を開催

●総合保健体育科学センター

総合保健体育科学センターは、1月9日(水)、物質科学国際研究センターにおいて、日仏シンポジウム「ひきこもり」を開催しました。

青年期の中でも、大学生や大学院生である期間は、最も「ひきこもり」へと至りやすい時期であるというのは日本では周知の事実ですが、2008年頃から、ヨーロッパの

国、とりわけイタリアやフランスにおいて、社会活動しない状態に陥っている青年が注目を集めています。そこで、2010年度より、精神科医である古橋忠晃総合保健体育科学センター助教を研究代表者として、精神医学者や教育学者、医療人類学者、社会人類学者、社会学者、哲学者などが日仏両国で研究チームを結成し、日仏比較共同研究を行ってきました。

シンポジウムでは、鈴木國文医学系研究科教授の司会のもと、初めに、杉山理事があいさつしました。続いて、ニコラ・タジャン トゥールーズ大学臨床心理士が日本のNPOの調査結果から、小川豊昭同センター教授が精神分析の観点から日本のひきこもりについて考察しました。次いで、社会人類学者のクリスティーナ・フィゲイレド パリデカルト大学准教授がアフリカのトゥアレグ族の通過儀礼をもとにひきこもり全般のあり方について、古橋助教がひきこもり青年の心的構造の日仏それぞれの特徴について、ナターシャ・ヴェルー パリデカルト大学臨床心理士がインターネット依存という側面からひきこもりが慢性化するメカニズムについて論じました。



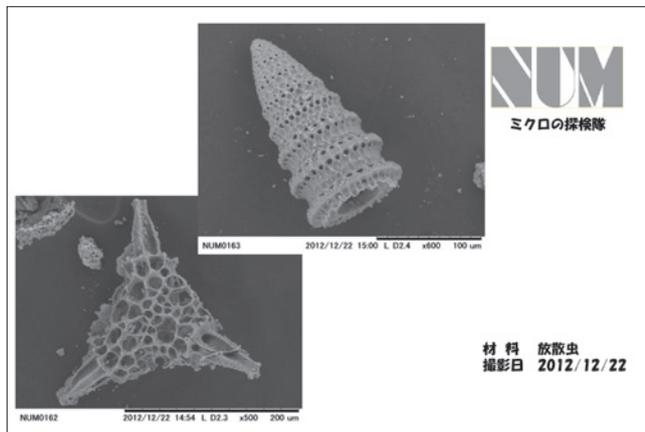
シンポジストと司会者

ミクロの探検隊を開催

●博物館

博物館は、12月22日(土)、ミクロの探検隊「微化石放散虫」を開催しました。

同企画は、平成19年から年に数回プログラムを変えながら行っているもので、今回は、大学院医学系研究科附属医学教育研究支援センター分析機器部門、株式会社日立ハイテクノロジーズの協力を受け、木曾川河岸のジュラ紀岩石



参加者が撮影・制作した放散虫のポストカード

から取り出した放散虫を材料として開催しました。放散虫とは、カンブリア紀に出現した単細胞プランクトンで、時代ごとに特徴ある形をしていることから、地質年代を決める示準化石としても用いられます。

当日はまず、実体顕微鏡を使い放散虫を観察しました。次に、実態顕微鏡の下で面相筆を使って一つひとつ放散虫を拾い、走査型電子顕微鏡の試料台の上に置きました。顕微鏡の下での細かい操作は難しく、参加者は神経を集中し作業を行いました。走査型電子顕微鏡での観察・撮影では、自分の拾った放散虫の特徴がはっきり見え、きれいな形に驚き、また実体顕微鏡ではわからなかった表面の模様なども鮮明に見え、歓声が上がりました。中にはジュラ紀の特徴的化石や地名である Unuma (鵜沼) の名前を持つ種を見つけた参加者もいました。

抽選で選ばれた19名が参加し、「もっと電子顕微鏡でいろいろなものを観察したい」、「今度は生きているプランクトンを観察したい」など、次回につながる感想が寄せられました。

なお、「ミクロの探検隊」は、12月より博物館の登録商標になりました。

名大を表敬訪問された方々 [平成24年10月16日～平成25年1月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
11月21日	ロシア	シベリア連邦大学ヴァガーノフ・エヴゲーニー学長をはじめとするクラスノヤルスク訪日代表団15名	表敬あいさつ、学術交流に関する意見交換及び施設見学
11月26日	フランス	フランス人間科学研究財団からジャーヌ・コビー日本部門ディレクター	表敬あいさつ及び学術交流に関する意見交換
12月10日	ミャンマー	ヤンゴン大学からダウ・タン・ニュー元法学部長	表敬あいさつ及び法整備支援20周年・CALE 設立10周年記念国際シンポジウム出席
12月10日	国際機関	国連グローバル・コンパクト PRME からジョナス・ハートル事務局長	表敬あいさつ及び意見交換
12月18日	モンゴル	モンゴル科学技術大学からダムディンスレン・バヤンドゥーレン学長他3名	表敬あいさつ及びリーディング大学院に関する打合せ
12月19日	ブルネイ	ブルネイ・ダルサラーム大学からトン・チー・キョン スペシャル・アカデミック・アドバイザー他1名	学術交流に関する意見交換
1月9日	国際機関	ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構からアーネスト・ルドヴィグ・ウィナカー事務局長	研究交流に関する意見交換

新たに締結した学術交流協定 [平成24年10月16日～平成25年1月15日]

大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
11月24日	カンボジア	カンボジア王立農業大学

部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
8月7日	中国・韓国	中国人民大学法学院、成均館大学法学専門大学院、同社会科学部、清華大学法学院、上海交通大学凱原法学院、ソウル国立大学校法科大学 (キャンパス・アジア中核拠点形成支援)	大学院法学研究科
10月29日	ベトナム	フエ医科薬科大学	医学部・大学院医学系研究科
11月5日	中国	中国科学院地理科学・資源研究所	大学院環境学研究科
11月28日	ロシア	ロシア科学アカデミーシベリア支部宇宙物理学及び超高層大気物理学研究所	太陽地球環境研究所
12月24日	韓国	韓国宇宙天気センター	太陽地球環境研究所

構成員を対象とした研修 [平成24年10月16日～平成25年1月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
10月16日(火)	感染症対策研修講演会 「院内感染対策 市中での感染症の 動向を知る」	感染症のリスクへの対策と対応や市中での感染症の動向を知り、院内感染対策への意識の向上を図る。	約400名
10月16日(火)	第6回 URA 研修	NEDO の施策の予算化の流れについて研修することで、リサーチ・アドミニストレーターとして必要な知識を養い、スキルアップを図る。	10名
10月17日(水)	学習研究が教育改革・FD/SD にどの ような影響を与えるか	学習研究が教育改革・FD/SD にどのような影響を与えるのかに関して、その背景にある理論と事例を報告する。	18名
10月18日(木)	第9回特許中級セミナー	特許出願の経験があり、権利化をしたいと考える教職員・研究者を対象に、新規性と進歩性について具体的事例を用いて対話形式で学習する場を提供し、研究者が特許査定に至る発明の要点習得をすることを支援する。	5名
10月24日(水)、 10月25日(木)	平成24年度東海地区国立大学法人等 目的別研修 (マネジメント+時間管理 研修)	東海地区国立大学法人等機関の職員に対し、職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職員としての資質の向上と職務遂行能力の増進を図る。	35名
10月30日(火)	第7回 URA 研修	ライフサイエンス産業の研究・開発の現状について研修し、リサーチ・アドミニストレーターとして必要な知識・スキルを養う。	11名
10月30日(火)、 10月31日(水)	平成24年度東海地区国立大学法人等 リーダーシップ研修	東海地区国立大学法人等機関の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員の資質向上を図る。	30名
11月1日(木)～ 2月28日(木)	平成24年度名古屋大学自主企画研修	職員が他大学等に赴き、または他大学等の者を本学に招へいすることで、知識、情報、技能を習得させるとともに、他機関の職員との幅広い人脈を形成させる。	84名
11月5日(月)	平成24年度法人文書管理及び個人情報 保護に関する教育研修会	法人文書の管理及び個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることにより、法人文書及び保有個人情報の適正な取扱いを実施し、漏えい等を防止する。	43名 (学外者8名 含む)
11月9日(金)～ 11月18日(日)	平成24年度名古屋大学民間企業派遣 研修	民間企業等の業務に従事することにより、柔軟かつ迅速な業務対応について学ぶとともに、今後の本学の発展に資する人材を養成する。	1名
11月13日(火)	大学におけるリーダーシップの形成	第1に、大学経営におけるリーダーシップの特徴について明らかにする。第2に、大学経営におけるリーダーシップの形成のあり方について論じる。第3に、リーダーが効果的なリーダーシップを発揮するために必要な条件について考える。	12名
11月13日(火)	法制執務研修会	法令用語に関する基本的知識を修得し、制定すべき必須事項や留意事項等に関する理解を深めることにより、法規事務担当者としての能力の向上を図る。	23名 (学外者6名 含む)
11月15日(木)	第72回特許基礎セミナー	特許出願が未経験で、今後出願したい、特許出願に興味を持っているあるいは出願経験はあるが再確認をしたい教職員・研究者・大学院生等を対象に、特許法の基礎知識、本学における特許出願の取扱い、特許出願に必須の先行技術調査の実習を行い、特許出願に必要な基礎知識の普及を図る。	4名
11月15日(木)～ 11月21日(水)	平成24年度名古屋大学語学実地研修	本学の国際交流・留学生担当職員及び今後英語能力を必要とする職員に対して、英語応用能力の増進を図り、もって国際化に適応した職員を養成する。	1名
11月20日(火)	第3回 事務部業務説明会 (医学部及び医学部附属病院講座 (医局)事務実務担当)	医学部及び附属病院の講座(医局)事務実務担当者に対して、各関係課の担当業務のマニュアル配布及び事務説明を行うことにより事務能力の向上を図る。	109名
11月22日(木)	第10回特許中級セミナー	特許出願の経験があり、権利化をしたいと考える教職員・研究者を対象に、中国の知的財産制度と産学連携モデルに詳しい弁理士による講義を通して、研究戦略を考える上で有用な情報を研究者に提供し、研究を支援する。	25名
11月29日(木)	平成24年度マイクロソフト OFFICE ソフト講習会 (Word2010)	基本的な文字装飾・配置・移動、ページ設定等を習得している中級者に効果的・効率的な使い方を習得させ、事務能力の向上を図る。	49名
11月30日(金)	平成24年度マイクロソフト OFFICE ソフト講習会 (Excel2010)	基本的な四則演習、SUM 関数、簡単な表作成(罫線、書式設定、合計計算)等を習得している中級者に、関数の演習、便利な関数・便利機能の効果的な使い方を習得させ、事務能力の向上を図る。	51名
12月3日(月)	平成24年度マイクロソフト OFFICE ソフト講習会 (PowerPoint2010)	PowerPoint の基礎及び便利な機能を習得させ、業務に役立て、事務能力の向上を図る。	26名

構成員を対象とした研修 [平成24年10月16日～平成25年1月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
12月3日(月)～ 12月6日(木)	平成24年度(後期)医療安全・院内感染対策・医薬品安全使用研修	医療法により病院管理者に定期開催が義務付けられている、従業者に対する研修であり、業務遂行上の技能やチームの一員としての意識向上を図る。	約2000名
12月4日(火)	第8回 URA 研修	米国の URA の現状を、第54回 NCURA 年会(ワシントン DC、2012年11月)の参加報告を基に研修し、今後の URA としての支援に必要な知識・スキルを養う。	10名
12月5日(水)	平成24年度名古屋大学事務系職員企画力向上研修	業務上の問題点や改善点についての改善企画から提案に至るまでの方法について学び、職員の企画力及びプレゼンテーション能力の養成を図る。	21名
12月5日(水)、 12月6日(木)	平成24年度国際業務トレーニング「効果的な英文 E メール の書き方」(セミナー)	主として事務職員を対象に英文メール作成に関するセミナーの受講機会を提供し、現在の英語力で理解しやすかつ説得力のある英文ビジネス E メールを短時間で作成するためのライティングスキル習得を目指す。	31名
12月5日(水)～ 3月6日(水)	平成24年度国際業務トレーニング「英文 E メール添削研修」(通信)	主として普段から英文メールを書いている中上級者の事務職員を対象に、設定されたシチュエーションに沿ったメールを作成し、インストラクターの添削を受けることで英文メールの作成スキルを伸ばす。	40名
12月10日(月)	第14回教務学生事務担当者実務研修	教務学生事務の実務を担当する職員の資質向上を目指し、教育・学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させることにより事務能率の向上を図る。	38名
12月10日(月)	ハラスメント防止研修	発達障害をかかえる(あるいは発達障害が疑われる)学生や同僚を理解し、支援について考える。	67名
12月11日(火)	ケースメソッドで主体的学びを実現する	ケースメソッドがどのような教育方法であるのかを紹介し、学生と教育機関の双方にとっていかなる意義と可能性をもつものであるのかを解説する。さらに、ケースメソッド導入のきっかけとなるよう、具体的な進め方や留意点を挙げて検討する。	14名
12月11日(火)	第9回 URA 研修	採択に至らなかった申請案件について、ケーススタディによりその要因を分析し、リサーチ・アドミニストレーターとしての今後の支援の質の向上を図る。	9名
12月12日(水)	クリニカル・インディケータに関する勉強会	外部有識者を招いて勉強会を開催し、病院機能指標について議論を深め、病院機能の強化及び医療の質の向上を推進するためのクリニカル・インディケータの策定に向けて基盤を整備する。	91名
12月14日(金)、 12月20日(木)	平成24年度個人情報保護管理者研修	個人情報保護管理者に対し、保有個人情報の適正な管理について知識を身につけさせることにより、本学における保有個人情報の適正な取扱いを実施し、漏えい等を防止する。	23名
12月17日(月)	第10回 URA 研修	大学の社会的責任とアウトリーチについて、リサーチ・アドミニストレーターの立場から考え、今後の業務に如何に活かすかをワークショップ形式で研修する。	11名
12月21日(金)	中国の高等教育における国際教育戦略	急速に変貌しつつある中国の国際教育交流戦略について紹介し、日本の高等教育への知見を得る。	13名
12月25日(火)	安全保障輸出管理研修会	安全保障輸出管理についてこれまで十分に周知する機会のなかった教職員等を対象とし、輸出管理の重要性や必要な手続きに関する理解を深める。	70名(学外者8名含む)
12月25日(火)	第11回 URA 研修	採択に至らなかった申請案件について、ワークショップ形式で要因分析を行い、今後のリサーチ・アドミニストレーターとしての支援の質の向上を図る。	10名
12月26日(水)	平成24年度メンタルヘルス講習会 ラインケアセミナー	ストレス及びメンタルヘルスクエアに関する基礎知識を理解するとともに、ラインケア-上司が部下の心の健康づくり対策のために行う活動-を行うための管理監督者の責任と役割を認識し、日常的に行うべき部下への対応を理解する。	34名
12月26日(水)	平成24年度メンタルヘルス講習会 セルフケアセミナー	「自分の健康は自分で守る」というセルフケアの考え方を理解し、ストレスへの気づきと対処法を身につけ、日常生活での実践につなげていく。	71名
1月15日(火)	第12回 URA 研修	産学官連携プロジェクトでのマネジメントとトラブルシューティングについて、企業人を講師に研修し、URA として必要な知識・スキルを養う。	13名

記事	月日	新聞等名
1 堀 勝工学研究科教授はカーボンナノグラフェンを常温で高速合成する技術の開発に成功	12.18 (火)	日刊工業
2 現代日本誤百科 (727) : 「目に見えて分かりやすい」 町田 健文学研究科教授	12.18 (火)	中日 (朝刊)
3 現代日本誤百科 (728) : 「つかえ棒」 町田 健文学研究科教授	12.19 (水)	中日 (朝刊)
4 叙位叙勲 : 従四位瑞宝中綬章 高桑康雄本学名誉教授	12.19 (水)	読売
5 教養教育院プロジェクトギャラリー clas 展示会「八嶋有司展『formless works』」開催 : 18～28日	12.19 (水)	朝日 (朝刊)
6 政府は駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生の依願退職を承認	12.19 (水)	読売
7 東山哲也理学研究科教授などは異種との受精を起こりやすくする植物交雑の鍵分子を発見	12.19 (水)	中日 (夕刊)
8 第25回博物館企画展「なんじゃ? もんじゃ? 高木典雄とコケの世界」開催 : 11月23日～2月2日	12.19 (水) 12.26 (水) 1.10 (木)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 読売
9 日本放射光学会市民公開講座「人と地球を守るシンクロトロン光」開催 : 1月12日	12.20 (木)	中日 (朝刊)
10 日越100年の絆 : 第2部 未来への懸け橋② 市橋克哉法学研究科教授はベトナムのハノイ法科大学に設置した「日本法教育研究センター」について語る	12.20 (木)	毎日 (夕刊)
11 前駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生が日本記者クラブで講演	12.21 (金)	朝日 (朝刊) 読売
12 野依良治本学特別教授が中日新聞「紙つぶて」月曜日の新しい執筆者となる	12.21 (金)	中日 (夕刊)
13 創薬科学研究科長に人見清隆同教授を選出	12.22 (土)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
14 第2回市民公開講座「体の痛みに関する国際シンポジウム」開催 : 1月20日 平田 仁医学系研究科教授が出席	12.22 (土)	中日 (朝刊)
15 ギターマンドリンクラブ第55回定期演奏会開催 : 28日	12.22 (土)	中日 (朝刊)
16 語り継ぐ東海 : 青色 LED ㊤ 赤崎 勇本学特別教授が世界初の青色 LED を開発するまでの道のり	12.23 (日)	読売
17 毎日新聞が本学を含む教育改革推進懇話会のメンバー12校に実施した入学時期に関するアンケートの結果を発表	12.23 (日)	毎日 (朝刊)
18 書籍 : 『「腹の虫」の研究 日本の心身観をさぐる』名古屋大学出版会	12.23 (日)	朝日 (朝刊)
19 語り継ぐ東海 : 青色 LED ㊤ 赤崎 勇本学特別教授の研究室に集まる天野 浩工学研究科教授や澤木宣彦本学名誉教授、三重大学教授平松和政氏本学卒業生の発言が紹介される	12.24 (月)	読売
20 現代日本誤百科 (730) : 「勇気と希望を与えたい」 町田 健文学研究科教授	12.24 (月)	中日 (朝刊)
21 教育学部附属中・高等学校は文部科学省が選ぶ国際バカロレア導入に向けた研究校に選ばれる	12.24 (月)	日本教育新聞
22 語り継ぐ東海 : 青色 LED ㊤ 元豊田中央研究所橋本雅文氏本学卒業生をはじめとする本学との共同研究など青色 LED の実用化までの道のり	12.25 (火)	読売
23 学生之新聞 : 編集後記 河村知拓さん本学3年生が企画した増え始める男性保育士の記事について語る	12.25 (火)	中日 (朝刊)
24 現代日本誤百科 (731) : 「思っています」 町田 健文学研究科教授	12.26 (水)	中日 (朝刊)
25 論点 : 高村ゆかり環境学研究科教授が温暖化対策の新しい枠組みについて解説	12.26 (水)	読売
26 現代日本誤百科 (732) : 「背中から刺す」 町田 健文学研究科教授	12.27 (木)	中日 (朝刊)
27 益川敏英本学特別教授と小林 誠同特別教授がノーベル物理学賞を受賞し、下村 脩同特別教授がノーベル化学賞を受賞したニュースが読売新聞の過去5年のトップ3として紹介される	12.27 (木)	読売
28 「科学三昧 in あいち2012」(第4回あいち科学技術教育推進協議会発表会)開催 : 26日 本学が参加	12.27 (木)	中日 (朝刊) 読売
29 大平英樹環境学研究科教授は「日記は毎日つける必要はない。書きたい時に書けばよい。やがてそれが自分の歴史となっていく」と語る	12.27 (木)	朝日 (夕刊)
30 クリックオピニオン : 山岡耕春環境学研究科教授は「確度が低い情報でも備えを」と語る	12.28 (金)	毎日 (朝刊)
31 クリックオピニオン : 宮本延春氏本学卒業生は「子どもの世界は大人の縮図」と語る	12.28 (金)	毎日 (朝刊)
32 あの日に迫る : 後 房雄法学研究科教授	12.28 (金)	中日 (夕刊)
33 総合保健体育科学センター長に押田芳治同教授を選出	12.29 (土)	中日 (朝刊)
34 おくる5月 : 外村 彰氏本学で博士号を取得	12.31 (月)	中日 (夕刊)
35 竹内恒夫環境学研究科教授は2030年には中部5県で総発電量の23.7%を再生エネルギーが占めると試算	1. 1 (火)	中日 (朝刊)
36 鮎京理事は本学が「ミャンマー・日本法律研究センター」を同国のヤンゴン大学に設立することについて「ミャンマーが法と秩序に基づく国家として再生する助けをしたい」と語る	1. 1 (火)	読売
37 日本経済新聞・電子版ビジネスリーダーの経営者ブログで前駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生の連載が始まる	1. 1 (火) 1.10 (木)	日経 (朝刊) 日経 (朝刊)
38 ニッポンを学ぶ① : トヨタに恋 夢は技術者 タン・シ・リアンさん工学部学生	1. 3 (木)	読売
39 中村 光工学研究科教授は研究施設「N2U-BRIDGE (ニュー・ブリッジ)」について「自治体の人もぜひ研修に来て欲しい」と語る	1. 4 (金)	朝日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年12月16日～平成25年1月15日]

記事	月日	新聞等名
40 時流の先へ 中部財界ものがたり：座談会で日本ガイシ株式会社相談役柴田昌治氏本学卒業生とJ.フロント リテイリング株式会社相談役岡田邦彦氏本学卒業生が中部財界について語る	1. 5 (土)	中日 (朝刊)
41 Nippon 蘇れ 私の処方箋：民間大使で迷走 前駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生	1. 5 (土)	読売
42 高校生 ESD コンソーシアム in 愛知開催：12月27日 野依記念学術交流館で行われ教育学部附属中・高等学校生が参加	1. 5 (土)	中日 (朝刊)
43 ニッポンを学ぶ④：「公害克服への道」追う バト ドルジ・ダワジャルガルさん経済学部学生	1. 6 (日)	読売
44 病院の実力：皮膚の病気 医学部附属病院の実績が取り上げられる	1. 6 (日)	読売
45 町田 健文学研究科教授は留学生について「幅広い国から多くの留学生を受け入れていけば日本との交流の懸け橋になる」と語る	1. 7 (月)	読売
46 現代日本誤百科 (733)：「吹奏楽の音色が響く」町田 健文学研究科教授	1. 7 (月)	中日 (朝刊)
47 紙つぶて：ノーベル賞と科学立国 野依良治本学特別教授	1. 7 (月)	中日 (夕刊)
48 本学と防災科学技術研究所は温暖化が進む21世紀末に伊勢湾台風級の台風が東京湾を襲うと121平方キロが浸水するとの予測をまとめた	1. 7 (月) 1. 9 (水)	毎日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
49 篠原久典理学研究科教授は国立大学法人10大学理学部長会議の提言について「学生は、科学立国を目指す日本の宝。継続的な支援をお願いしたい」と語る	1. 7 (月)	中日 (夕刊)
50 医学部附属病院は NICU・GCU の新規患者受け入れを再開	1. 7 (月) 1. 8 (火)	中日 (夕刊) 日経 (夕刊) 読売 他2社
51 野依良治本学特別教授などが審査に当たった第9回 (平成24年度) 日本学術振興会賞の受賞者を発表	1. 8 (火)	日経 (朝刊)
52 現代日本誤百科 (734)：「うだつが上がらない投球」町田 健文学研究科教授	1. 8 (火)	中日 (朝刊)
53 研究現場発：構造に指南された創薬戦略 藤吉好則細胞生理学センター教授	1. 8 (火)	中部経済新聞
54 本学が文部科学省リサーチ・アドミニストレーター (URA) 事業の採択大学として取り上げられる	1. 8 (火)	日刊工業
55 第25回博物館企画展「なんじゃ?もんじゃ? 高木典雄とコケの世界」特別講演会「苔 こけ コケ」開催：12日 国立科学博物館陸上植物研究グループ長樋口正信氏が講演	1. 8 (火) 1.10 (木)	中日 (朝刊) 読売
56 愛知 (ここ) に人あり：「大好き」といっしょ第二部① 作家で椋山女学園大学准教授堀田あけみ氏本学卒業生	1. 8 (火)	朝日 (朝刊)
57 名古屋難民支援会の初代コーディネーターに就任した羽田野真帆さん国際開発研究科2年生の活躍が取り上げられる	1. 8 (火)	日経 (夕刊)
58 松尾清一医学部附属病院長と愛知県医師会長柵木充明氏本学卒業生が読売新聞東京本社座談会「地域医療の現状と課題」に出席	1. 9 (水)	読売
59 現代日本誤百科 (735)：「その日から十年後」町田 健文学研究科教授	1. 9 (水)	中日 (朝刊)
60 愛知 (ここ) に人あり：「大好き」といっしょ第二部② 作家で椋山女学園大学准教授堀田あけみ氏本学卒業生	1. 9 (水)	朝日 (朝刊)
61 現代日本誤百科 (736)：「遅きに逸する」町田 健文学研究科教授	1.10 (木)	中日 (朝刊)
62 アジア跳ぶ：日本に求めるものは 前駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生	1.10 (木)	日経 (朝刊)
63 愛知 (ここ) に人あり：「大好き」といっしょ第二部③ 作家で椋山女学園大学准教授堀田あけみ氏本学卒業生	1.10 (木)	朝日 (朝刊)
64 ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや建設予定地の土壌から最大で基準値の3倍に当たる六価クロムを検出	1.11 (金)	読売
65 第13回市民講座「暮らしと設備」セミナー開催：24日 草野完也太陽地球環境研究所教授が講演	1.11 (金)	中日 (朝刊)
66 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：2月11日 益川敏英本学特別教授が講演と討論を行う	1.11 (金)	読売
67 飛田武幸本学名誉教授が国際舞台の一線から退き木村芳文多元数理科学研究科教授など後輩に託す	1.11 (金)	中日 (朝刊)
68 愛知 (ここ) に人あり：「大好き」といっしょ第二部④ 作家で椋山女学園大学准教授堀田あけみ氏本学卒業生	1.11 (金)	朝日 (朝刊)
69 野依良治本学特別教授が理事長を務める理化学研究所を安倍晋三首相が視察し京都大学教授山中伸弥氏も交え3氏で懇談	1.12 (土)	読売
70 愛知 (ここ) に人あり：「大好き」といっしょ第二部⑤ 作家で椋山女学園大学准教授堀田あけみ氏本学卒業生	1.12 (土)	朝日 (朝刊)
71 皇后盃第31回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会：13日 鈴木亜由子さん経済学部3年生が1区を務める愛知 歴代最高6位入賞	1.14 (月)	中日 (朝刊)
72 牧野絵美法学研究科助手は本学が「ミャンマー・日本法律研究センター」を6月に同国のヤンゴン大学に設立する準備をすすめていることについて「日本の教員等を常駐させ、センターの役割を充実させたい」と語る	1.15 (火)	日経 (朝刊)
73 吉田俊和教育発達科学研究科教授は「現実を補うなら SNS は非常に有効な道具」と語る	1.15 (火)	中日 (朝刊)
74 本学も11回にわたる説明会を実施し昨年の反省を踏まえ大学入試センター試験に臨む	1.15 (火)	読売
75 第5回「おもしろ科学教室」開催：14日 本学で開催	1.15 (火)	中日 (朝刊)
76 第10回キャンパスベンチャーグランプリ中部：中部経済産業局長賞受賞 碓井康祐さん本学学生など、特別賞名古屋商工会議所会頭賞 杉本慶樹さん本学学生	1.15 (火)	日刊工業
77 愛知 (ここ) に人あり：「大好き」といっしょ第二部⑥ 作家で椋山女学園大学准教授堀田あけみ氏本学卒業生	1.15 (火)	朝日 (朝刊)

平成24年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、2月1日現在のものです。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

所 属	氏 名	職 名	月 日	時 間	場 所	講義題目	問い合わせ先	備 考
法学研究科	松浦 好治 教授		3月2日(土)	15:00~16:30	法学部第3講義室	法という道具：法思想史からみた法の技術革新	佐野智也研究員 052-788-6236	
	杉浦 一孝 教授	実施しない						
経済学研究科	平川 均 教授		3月2日(土)	15:00~17:00	経済学部棟 第3講義室	赤松要と名古屋高等商業学校 一雁行形態論の誕生とその展開に関する一試論	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-2355	
	多和田 真 教授		3月9日(土)	14:00~15:30	経済学部棟 第1講義室	公共中間財がある場合の貿易理論の分析を めぐって	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-2355	
	岸田 民樹 教授		3月15日(金)	14:45~16:15	経済学部棟 第2講義室	組織論から組織学へ	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-2355	
理学研究科	大澤 幸治 教授		3月4日(月)	13:40~14:40	理学部 B5講義室 (B館501号室)	衝撃中の粒子加速	庶務掛 052-789-2395	
	野崎 一洋 教授		3月4日(月)	15:00~16:00	理学部 B5講義室 (B館501号室)	私的非線形の世界とソリトンのカオス	庶務掛 052-789-2395	
	近藤 孝男 教授		3月19日(火)	15:20~16:20	理学南館大講堂 (坂田・平田ホール)	生命の一日を巡って	庶務掛 052-789-2395	
	西田 育巧 教授		3月19日(火)	13:00~14:00	理学南館大講堂 (坂田・平田ホール)	ショウジョウバエと共に28年	庶務掛 052-789-2395	
医学系研究科	曾我部正博 教授		3月8日(金)	14:30~16:00	基礎医学研究棟4階 第4講義室	脳から分子と細胞へ、そして再び脳へ： 40年の遍歴	医学部・医学系研究科 総務課総務第一掛 052-744-2774	
	直江 知樹 教授		3月18日(月)	16:00~17:30	基礎医学研究棟4階 第4講義室	白血病研究と私	医学部・医学系研究科 総務課総務第一掛 052-744-2774	
	安藤 久實 教授		3月27日(水)	15:30~17:00	基礎医学研究棟4階 第3講義室	黄疸との闘い40年	医学部・医学系研究科 総務課総務第一掛 052-744-2774	
工学研究科	水谷 孝 教授		3月1日(金)	15:00~	IB 電子情報館2階 大講義室	半導体電子デバイス研究40年	総務課総務掛 052-789-3402	
	大久保 仁 教授		3月4日(月)	15:00~16:30	ES 総合館1階 ES ホール	高電圧電力技術に魅せられて 一高電界現象究明の40年一	総務課総務掛 052-789-3402	
	福田 敏男 教授		3月6日(水)	15:00~16:30	ES 総合館1階 ES ホール	マルチスケールロボティクスの未来	総務課総務掛 052-789-3402	
	美宅 成樹 教授		3月7日(木)	15:00~	IB 電子情報館2階 大講義室	生物とは何か？	総務課総務掛 052-789-3402	
	梅村 章 教授		3月8日(金)	15:00~	工学部2号館南館 4階241号室	ロゲリジスト風に	総務課総務掛 052-789-3402	
	平出 正孝 教授		3月11日(月)	15:00~16:00	IB 電子情報館1階 015講義室	トレースアナリシスとともに	総務課総務掛 052-789-3402	
	山崎 耕造 教授		3月15日(金)	15:00~16:30	ES 総合館3階 034講義室	プラズマと核融合の未来~実験と理論の狭間で~	総務課総務掛 052-789-3402	
	谷口 元 教授		3月18日(月)	16:00~17:15	ES 総合館1階 ES ホール	建築計画の実践を通じて得たもの	総務課総務掛 052-789-3402	
生命農学研究科	三宅 博 教授		2月15日(金)	13:35~14:20	生命農学研究科 第12講義室	アーティファクトも利用して電子顕微鏡で見る	庶務掛 052-789-5266	
	柳沼 利信 教授		2月15日(金)	14:25~15:10	生命農学研究科 第12講義室	カイコの胚休眠の研究とともに	庶務掛 052-789-5266	
国際開発研究科	高橋 公明 教授		3月8日(金)	15:00~17:00	国際開発研究科8階 多目的オーデトリウム	Birth of New Perspectives through Integration of Origin Maps	文系総務課総務グループ (国開担当) 052-789-4952	
国際言語文化 研究科	大庭 正春 教授		2月1日(金)	14:00~15:30	文系総合館7階 カンファレンスホール	エミール・オルリックと浮世絵	文系総務課総務グループ (国際言語担当) 052-789-5312	
環境学研究科	溝口 常俊 教授		2月22日(金)	13:30~15:00	環境総合館1階 レクチャーホール	歴史資料から見た災害列島日本	社会環境学専攻地理学 講座 奥貫圭一准教授 052-789-2236 または 2233	
情報科学研究科	横井 茂樹 教授		2月18日(月)	13:30~15:00	情報科学研究科棟 第1講義室	現代社会と創造力	安田孝美教授 052-789-4855	
	渡邊 豊英 教授	実施しない						
創薬科学研究科	福山 透 教授	実施しない						
太陽地球環境 研究所	荻野 瀧樹 教授		3月22日(金)	16:10~17:40	野依記念学術交流館 2階 カンファレンスホール	地球惑星磁気圏のシミュレーション	研究所総務課 052-747-6303	

所 属	氏 名 職名	月 日	時 間	場 所	講義題目	問い合わせ先	備 考
エコトピア科学 研究所	北川 邦行 教授	3月7日(木)	13:00~14:30	工学研究科1号館 121講義室	「分光の夢を追いつつ四拾年虹の七色未だ見えず」	エコトピア科学研究所 和久 052-789-3910	
	松波 紀明 准教授	3月11日(月)	15:30~16:30	共同教育研究施設 2号館8階 801会議室	「イオンビームを用いた物性改質及び分析」	長崎正雅教授 052-789-3607 曾田一雄教授 052-789-4683	
	白倉 治郎 教授	3月14日(木)	15:00~16:00	ES 総合館1階 ES ホール	「電子顕微鏡による細胞内微細空間構造の解析： 膜細胞骨格から核膜骨格へ」	エコトピア科学研究所 吉岡 052-789-3925	
地球水循環研究 センター	中村 健治 教授	3月1日(金)	13:30~15:00	野依記念学術交流館 カンファレンスホール	気象学と精密科学	上田 博教授 052-789-3492	
遺伝子実験施設	石浦 正寛 教授	3月19日(火)	14:10~15:10	理学南館大講堂 (坂田・平田ホール)	生物時計に魅せられて	庶務掛 052-789-2395	
留学生センター	松浦まち子 教授	実施しない					
物質科学国際 研究センター	巽 和行 教授	3月19日(火)	10:00~12:00	野依記念物質科学 研究館2階講演室	金属錯体の理論研究から還元系金属酵素活性中心 の研究へ：出会いに恵まれて	庶務掛 052-789-2395	
細胞生理学研究 センター	藤吉 好則 教授	実施しない					

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月5日(月)~3月8日(金)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス2階

時 間：10:00~16:00

休 館 日：土・日・祝日

入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウス展示
「昆虫図譜—解剖学者奈良坂源一郎の博物画」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

2月5日(火)~5月10日(金)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール

時 間：9:00~20:00(平日)

(3/21~30の平日は9:00~17:00)

13:00~17:00(土曜日)

休 館 日：日・祝日

入 場 料：無料

附属図書館医学部分館第3回ミニ展示会

「不思議!? 解剖図
—ヴェサリウスから奈良坂源一郎まで—」



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

2月9日(土)~3月9日(土)

場 所：博物館展示室

時 間：10:00~16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

第26回博物館企画展

「ボタニカルアートと明治の博物画」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月18日(月)

場 所：ES 総合館 1 階 ES 会議室
 時 間：13:30～16:30
 対 象：一般
 参 加 費：無料

総合保健体育科学センターセミナー

テ ー マ：「現代の日本社会と青年の自殺問題について考える」
 講演題目：「現代の日本における自殺と社会について…
 社会学の古典の見方から」
 講 演 者：阪本俊生氏（南山大学教授）
 内 容：講演、指定発言、討論会

[問い合わせ先]

総合保健体育科学センター 052-789-5778

2月20日(水)、27日(水)

場 所：博物館講義室
 時 間：13:00～15:30
 定 員：20名
 対 象：初心者(2日間とも参加可能な方)
 参 加 費：1,000円(材料費)

体験講座「初めての博物画ーボタニカルアート」

講 師：東海林富子氏(植物画家)

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



2月20日(水)

場 所：農学部 1 階第 7 講義室
 時 間：10:00～11:30
 参 加 費：無料

2012年度第 5 回農学国際教育協力研究センター オープンセミナー

講演題目：「アフリカの農業研究の発展に対する国際熱帯農業研究所 (IITA) の役割」
 講 師：ウテランヤ・サンギンガ氏(国際熱帯農業研究所長)

[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター
 教授 浅沼修一 052-789-4232

2月20日(水)

場 所：文系総合館 7 階オープンホール
 時 間：16:00～18:00
 参 加 費：無料

高等教育研究センター第65回客員准教授セミナー

講演題目：「学生の学習成果をどう測るか」
 講 師：柳 志憲(高等教育研究センター外国人研究員)

[問い合わせ先]

高等教育研究センター
 教授 夏目達也 052-789-5696

2月23日(土)、24日(日)

場 所：名古屋市科学館(2/23)、
 蒲郡市生命の海科学館、
 三田石材(2/24)
 時 間：14:00～16:30(2/23)、
 9:00～16:00(2/24)
 定 員：30名
 対 象：小学3年生から中学3年生と
 その保護者(中学生は個人参加可)
 参 加 費：1,000円(保険料)

名古屋市科学館共催事業第 4 回地球教室

テ ー マ：「鉱物をさがそう！」
 内 容：鉱物の性質について学習し、鉱物の採集と鑑定を行う

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



2月26日(火)

場 所：環境総合館 1 階レクチャーホール
 時 間：18:00～19:30
 定 員：120名
 対 象：一般
 参 加 費：無料

第87回防災アカデミー

講演題目：「大災害と法ー災害復興の壁になる制度と被災者を救う法制度」
 講 演 者：津久井 進氏(芦屋西宮市民法律事務所弁護士)

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月26日(火)

場 所：情報基盤センター4階演習室
時 間：13:00～14:30
定 員：40名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成24年度第11回

情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「セキュリティの専門家ではない開発者にとってのセキュリティ
ーおサイフケータイの開発と運用の事例を通して考える」
講 演 者：栗田太郎氏（フェリカネットワークス株式会社統括課長）
内 容：FeliCa、おサイフケータイの基本技術、事例、課題と対策を紹介しながら、
セキュリティの専門でない一般的な開発者にとってのセキュリティに
ついて考えていく

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

3月2日(土)

場 所：ES 総合館、他
時 間：10:00～17:00
対 象：一般
参 加 費：無料

大学教育改革フォーラム in 東海 2013

講演題目：「学生の主体的学びをどう促すか」
講 演 者：川島啓二氏（国立教育政策研究所総括研究官）
内 容：基調講演、オールセッション、ポスターセッション、
ミニワークショップ

[問い合わせ先]

高等教育研究センター 052-789-5696

3月2日(土)

場 所：博物館講義室
時 間：13:30～15:00
対 象：一般
参 加 費：無料

博物館特別講演会

講演題目：「彫刻と自然」
講 演 者：絹谷幸太氏（名古屋芸術大学非常勤講師）

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月3日(日)

場 所：野依記念学術交流館
時 間：10:30～18:30

東海圏減災研究コンソーシアム設立記念行事

講 演 者：中島正愛氏（京都大学教授）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

3月5日(火)

場 所：カフェフロンテ
時 間：18:00～19:30
定 員：50名
対 象：一般
参 加 費：無料（会場にてドリンク等の注文が必要）

第22回げんさいカフェーGen Science Caféー

テ ー マ：研究者と市民とが対話するサイエンスカフェ
講 演 者：倉田和己（減災連携研究センター寄附研究部門助教）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

3月9日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：14:00～15:00
参 加 費：無料

博物館コンサート

テ ー マ：「愛と自然のバロック音楽ーイギリス、フランスの香rier」
演奏曲目：「グリーンスリーブス」作者不詳、
「かつて木陰ほど (Ombra mai fù)」ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル、
「森の妖精」「蜜蜂」フランソワ・クーブラン他
出 演：加藤佳代子氏（ソプラノ）、杉浦道子氏（チェンバロ）

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.237 平成25年2月15日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

松下 正医学部附属病院教授
による採血実習の様子
(平成25年1月17日)



130 学部の誕生と草創期⑤ — 医学部 —

医学部は、その前身をたどれば、明治初年の医学校まで歴史をさかのぼることができますが、ここでは他学部と同じく、学部としての誕生と草創期を見てみましょう。

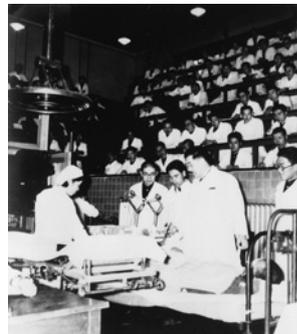
名大医学部は、1939(昭和14)年4月1日に名古屋帝国大学医学部として誕生しました。戦時体制下ではありましたが、設置そのものが難航した他学部と比べれば、官立名古屋医科大学を校舎や教員ごと移行できた医学部は、まだしも恵まれていた方だといえます。名医大の学生も、名帝大医学部の学生として編入されました。医学部長には、名帝大創設の立役者でもあった田村春吉名医大が就任しました。

講座やカリキュラムも、名医大のものがほぼそのまま受け継がれました。また、戦時色の強い関連部局として、軍医養成のための医学専門部(1939年)、航空医学研究所(1943年、40年に増設された医学部航空医学二講座から発展)などが置かれました。

医学部誕生直後の1939年5月には、名古屋商工会議所において、医学部学友会主催の名古屋帝国大学創立祝賀会(医学部創設祝賀会)が、地元の政財界などから来賓を迎えて開催されました。同日には、鶴舞の名古屋市公会堂において、祝賀学友大会(大懇親会)が、関係者一千余名を集めておこなわれています。

しかし医学部は、ほどなく大きな試練にみまわれることになりました。1945年3月の名古屋空襲によって、鶴舞の建物の多くを失ったのです。医学部校舎は焼失率約97%とほぼ全滅、附属病院も約51%とほぼ半分の施設を焼失しました。

敗戦後は、県から旧昭和塾堂の建物(現在も城山八幡宮敷地内に残る)を校舎として借り受けて授業を開始し、附属病院は鶴舞に旧海軍の建物を移築するなどして急場をしのぎました。戦後の医学部は、鶴舞の復興を大きな課題として再出発することになったのです。



1	2	3	4
5	6		

- 1941年医学部卒業アルバムより。1939年5月の創立祝賀会か同日の大懇親会の模様と思われる。
- 日本の脳神経外科学のバイオニアとして著名な齋藤 眞教授の臨床講義。
- 名古屋帝国大学医学部の正門(中日新聞社提供)。
- 名古屋帝国大学医学部の正門及び外堀の遺構。金属部分は復元によるが、門柱は医学部創設当時にも使われていたもの(国の登録有形文化財)。
- 空襲をうける前の名古屋帝国大学医学部。
- 空襲翌年の鶴舞航空写真(国土交通省国土地理院所蔵、医学部の敷地以外は画像をうすくしてある)。北部・東部の一部以外は、空襲で何もなくなっている様子が分かる。